

「高崎健康福祉大学 高校生論文コンテスト 2022」講評

高校生を対象とした本論文コンテストでは、「SDGsで協調する社会—私たちにできること」というテーマで論文を募集しましたが、おかげさまで全国から347件の応募がありました。たくさんのご応募、ありがとうございました。

この347件の応募論文を本論文コンテスト審査委員会において厳正かつ公平に審査した結果、学長賞1件、優秀賞2件、学校賞6件が選考され、12月15日（木）に審査結果を本学ホームページで公表しました。

◆学長賞◆

加藤 彩稔・今野 寿々奈（岩手県立釜石高等学校3年）
「釜石高校におけるオンライン教育の導入」

◆優秀賞◆（五十音順）

屋井 姫詩・龍 麻央（鹿児島県立大島高等学校2年）
「奄美の現状から学ぶチーム医療の重要性」

川村 寛太郎（立命館慶祥高等学校3年）
「実践する外来種食」

◆学校賞◆（五十音順）

岡山龍谷高等学校
鹿児島県立大島高等学校
群馬県立伊勢崎興陽高等学校
群馬県立中央中等教育学校
桜丘高等学校
高崎健康福祉大学高崎高等学校

受賞されたみなさん、おめでとうございます。以下に、受賞論文の概要と、審査過程で高評価となったポイントについて説明します。

学長賞を受賞した加藤彩稔さんと今野寿々奈さんの論文「釜石高校におけるオンライン教育の導入」は、自らが通う高校でオンライン授業を導入することにより、リモート教育の可能性と有効性を探った論文である。ICT機器は配備され

ていてもリモート教育が進まない現状に対して、教員と生徒のそれぞれがオンライン授業にどのようなイメージを持っているのかを調査し、有効に活用されている事例と対比することで、制約となっている要因を特定して、具体的な改善方法を提案している。教育格差の解消というSDGsの目標に向けたひとつの実践として高く評価された。

優秀賞を受賞した屋井姫詩さんと龍麻央さんの論文「奄美の現状から学ぶチーム医療の重要性」は、医療サービスの偏在問題に着目して、医療へき地と言われる離島の医療を補完するためのシステムについて考察した論文である。2年にわたる探究は、1年目のドクターヘリに関わる調査を経て、次第にドクターヘリの活用を支えるチーム医療体制の調査へと移行していくが、地道な調査結果の積み重ねが分析視点の深化へつながっていく点が高く評価された。

同じく優秀賞を受賞した川村寛太郎さんの論文「実践する外来種食」は、環境や生態系の維持・保全にとって脅威となっている外来種について、侵攻を防止するための具体策を論じた論文である。侵略的外来種の駆除は従来から実施されているが、より効果的な駆除には市民の参加とリピートが不可欠であるとして、外来種問題の概要や生物多様性の意味とともに、地元でも問題となっている外来ザリガニの捕獲方法と食べ方を解説している。食用が可能な外来種は美味しく食べることが市民参加を促すために重要であるとして実践している点が高く評価された。

また、学校賞6件は、いずれも10件以上の応募を頂戴した学校が受賞の対象になっています。たくさんのご応募を頂戴し、ありがとうございました。

なお、学長賞と優秀賞の3件に加えて、次の7件が最終選考に進みました。該当論文のタイトルを掲載することで、健闘を称えたいと思います（五十音順）。

「オーガニックコスメ」

「女性差別を減らす～女性に優しいトイレの設置を目指して～」

「道徳教育を心に響くものにする」

「東ティモールの貧困による飢餓を減らす～ヤギ銀行ネットワークの普及～」

「非行少年とその保護者に対する支援—少年法からSDGsを考える—」

「麦ストロー使用の提案」

「問題解決に向けて生徒の新たなインターンシップの利用方法と可能性」